

複雑な問題を解決するための フューチャーセッション

「未来のステークホルダー」と共に創り出す未来

野村 恭彦 / Takahiko Nomura, Ph.D.

株式会社フューチャーセッションズ 代表取締役

国際大学GLOCOM 主幹研究員

K.I.T.虎の門大学院 客員教授



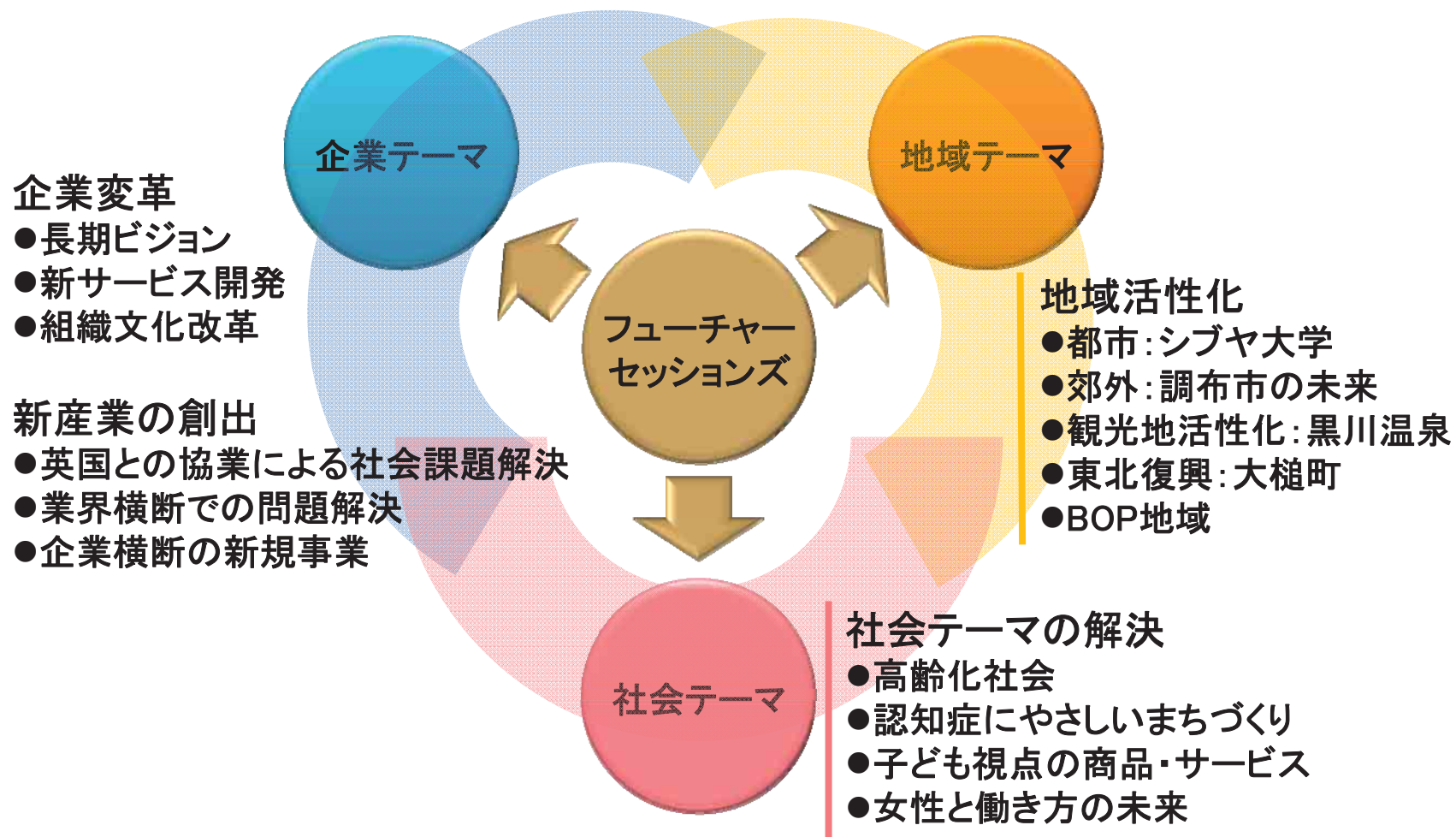
フューチャーセンターの構成要素



1. “空間”：多様な人がいつでも課題を持ち込みオープンに対話できる、創造的な空間(固定的な空間でなくても構いません)
2. “ファシリテーター”：必ずファシリテーターが入り、対話を促進します
3. “方法論”：様々な対話の手法や問題解決の方法論を目的に応じて活用します
4. “おもてなし”：人としての関係性づくりを促します

フューチャーセッションズの活動

- セクター横断のイノベーション・プラットフォームを構築する

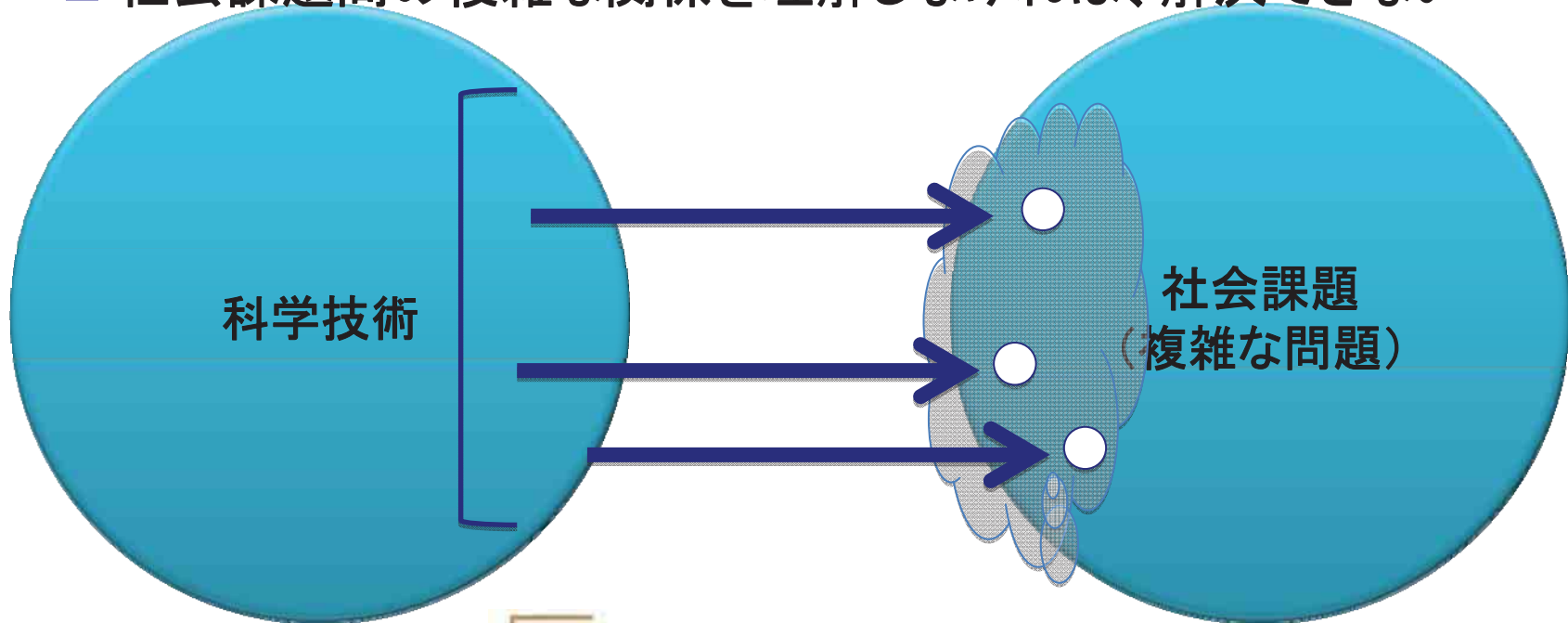


複雑な問題とは

- 単純な問題 (simple problems)
 - どんなに難しくても、答えが一つに決まる問題
- 煩雑な問題 (complicated problems)
 - 時間がかかっても、いつかは解ける問題
- 複雑な問題 (complex problems)
 - 人間関係、地域間・世代間の格差、地球環境問題など、矛盾やトレードオフがあり、当事者が考え方や態度を変えなければ解決できない問題

ソーシャルイノベーションには 複雑な問題に対するアプローチが必要

- 科学技術にはディシプリンがあるが、社会課題に対するディシプリンが存在しない
 - その結果、場当たりの課題設定が繰り返されている
 - 社会課題間の複雑な関係を理解しなければ、解決できない



合意形成 → 創意形成の場に

- フューチャーセッションは、多様なステークホルダーを招き、一緒に未来を描くためのプロセスを提供する
- フューチャーセッションは意思決定や合意形成のための場ではなく、つねに問いを開き続けることで、参加者自身が目的を創り出し、主体的に実行することを促す
- いわゆる有識者会議とは異なる
 - 一部の専門家ではなく、より広範なステークホルダーが参加する
- いわゆるタウンミーティングとは異なる
 - 参加者同士が対話し関係性を構築することで、協調的なアクションを引き出す。その結果、一見対立する意見を持ったグループ同士が協力し合うことができる

フューチャーセッションのプロセス

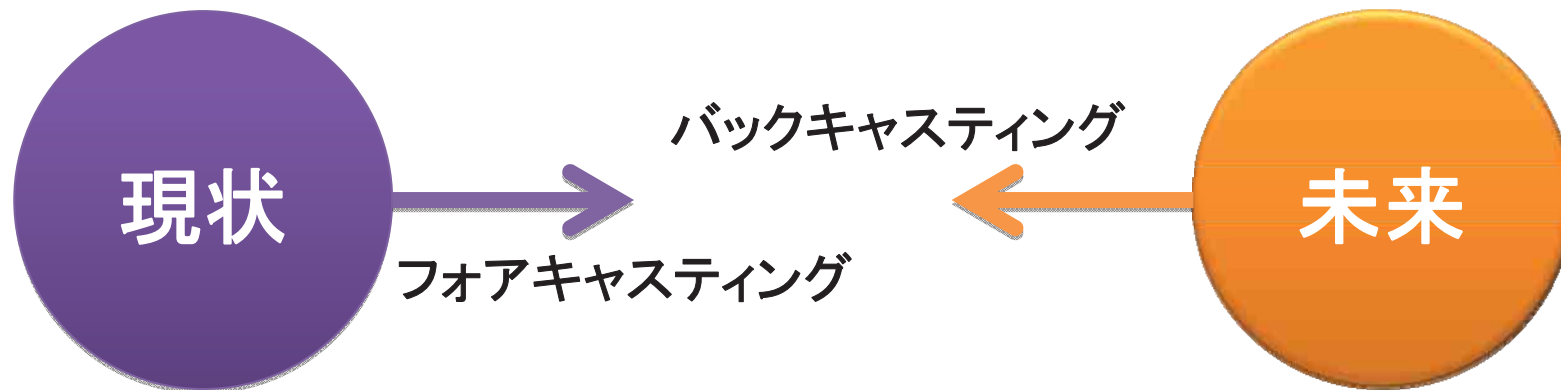


1. 想いを持った人の、大切な問いから、すべてが始まる
2. 多様な人たちの知恵が一つの場に来まる
3. 集まった人たちの関係性を大切にする
4. アクティブに学び、実践、プロトタイピングする
5. あらゆる情報やアイデアを空間内に可視化する
6. 良い場が、アクションを起こす(それを信じる)

未来思考

複数の未来シナリオへの集団的意識が、現在のしがらみから私
たちを解放つ

極端な未来が「来るもの」と仮定して、「そう
なったとき、私たちはどうしているだろうか？」
と考える(できない理由ではなく、できたとき
のことを考える)



予測をしようとする、
確からしさを求めるために、
現状の「変わらない理由」に
絡めとられてしまう

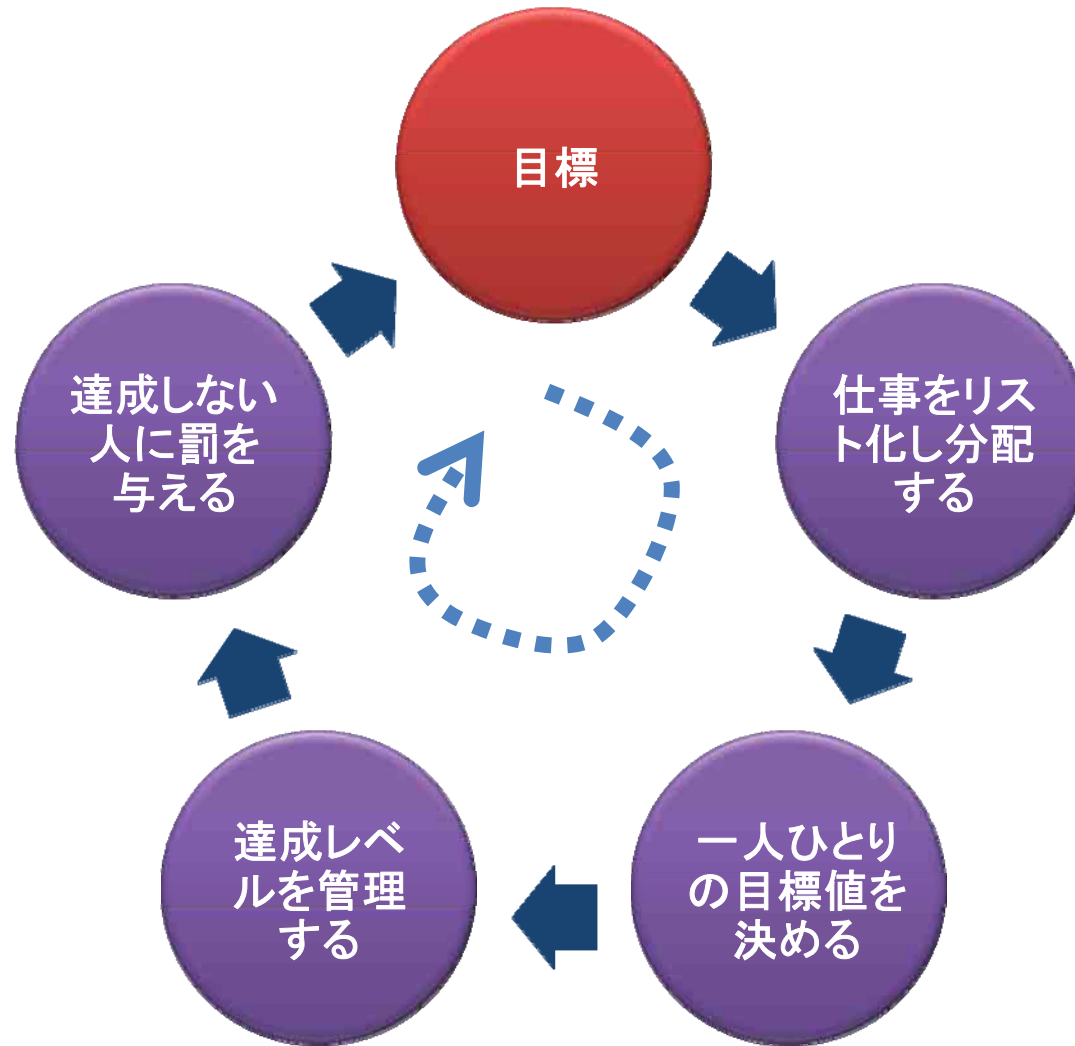
未来のステークホルダー



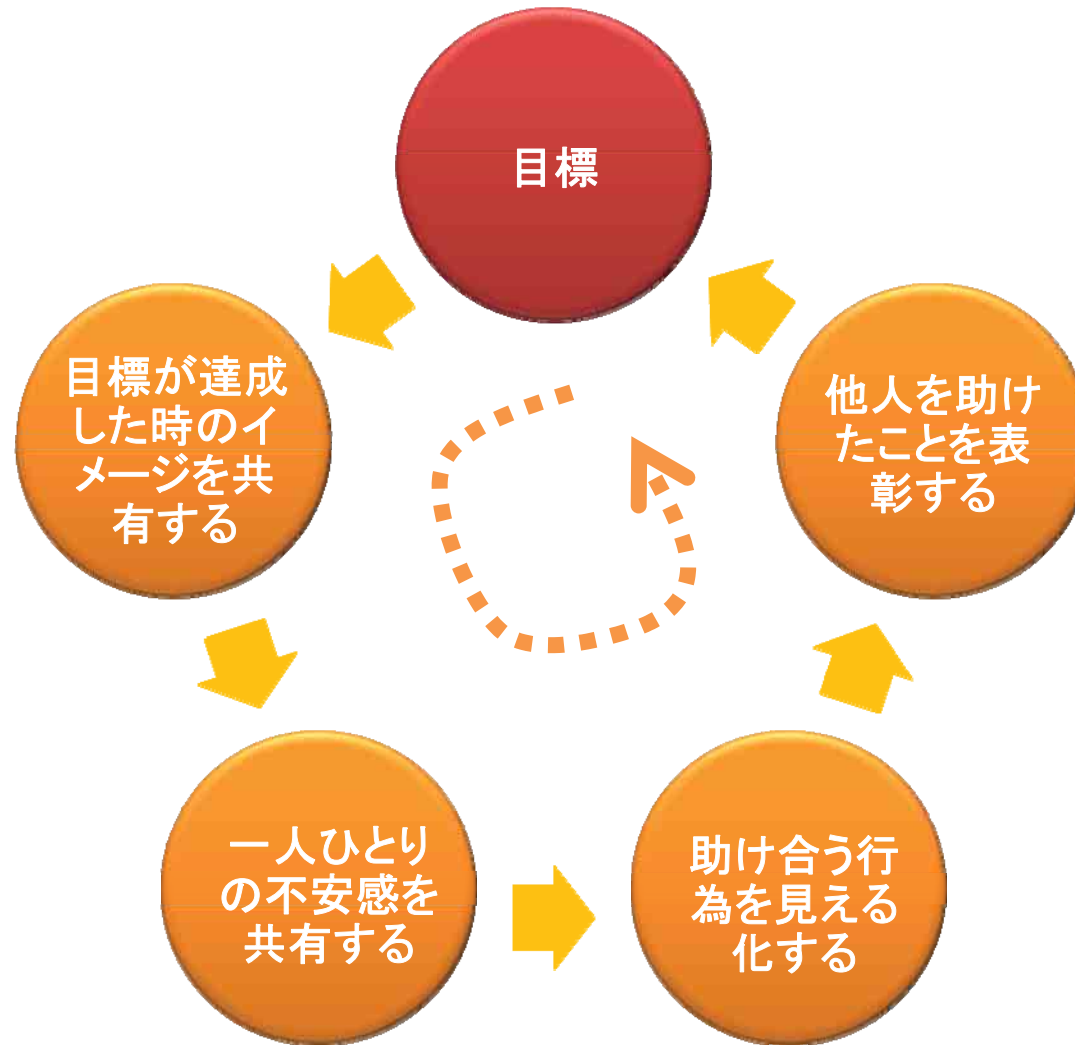


富士通研究所＋認知症フレンドシップクラブ
認知症フューチャーセッション

負のスパイラル



正のスパイラル



Future Session Eco-system

